

平成29年8月8日

# 平成29年度中学校新教育課程説明会 理科

奈良県教育委員会事務局

学校教育課指導主事 富倉 勇

E-mail:[tomikura-isamu@office.pref.nara.lg.jp](mailto:tomikura-isamu@office.pref.nara.lg.jp)

# 本日お伝えする内容

- 1 理科改訂の要点
- 2 改善・充実の具体的事項
- 3 移行措置について

# 学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする  
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる  
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、  
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

**「社会に開かれた教育課程」**の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた  
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

**学習内容の削減は行わない**※

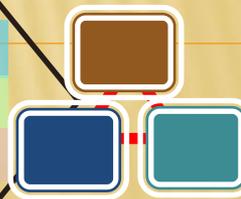
どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得  
など、新しい時代に求められる資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善

主体的な学び  
対話的な学び  
深い学び



「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」（H28.8）

※高校教育については、些末な事実的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

# 1 理科改訂の要点

解説p.6

## 成果

○科学的リテラシーの平均得点が比較可能な調査回以降、最も高い。

## 課題

- 理科を学ぶことに対する関心・意欲や意義・有用性に対する認識について、肯定的に回答する割合が国際的に見て低い。
- 「観察・実験の結果などを整理・分析した上で、解釈・考察し説明すること」などの資質・能力に課題が見られる。

## (1) 改訂に当たっての基本的な考え方

○理科で育成を目指す資質・能力を育む観点から、

→自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈するなどの科学的に探究する学習を充実した。

○理科を学ぶことの意義や有用性の実感及び理科への関心を高める観点から、

→日常生活や社会との関連を重視した。

## (2) 「理科の見方・考え方」

従来、理科においては「科学的な見方や考え方」の育成を目標として位置付け、資質・能力を包括するものとして示してきた。今回の改訂では、「見方・考え方」は資質・能力を育成する過程で働く、物事を捉える視点や考え方として全教科等を通して整理されたことを踏まえて示すようにする。

- ① 理科における「見方」…理科を構成する領域ごとの特徴から整理。
- 「エネルギー」を柱とする領域  
… 主として量的・関係的な視点
  - 「粒子」を柱とする領域  
… 主として質的・実体的な視点
  - 「生命」を柱とする領域  
… 主として多様性と共通性の視点
  - 「地球」を柱とする領域  
… 主として時間的・空間的な視点

- ② 理科における「考え方」  
探究の過程を通じた学習活動の中で、例えば、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること。

理科の学習においては、「理科の見方・考え方」を働かせながら知識及び技能を習得したり、思考、判断、表現したりしていくものであると同時に、学習を通して「理科の見方・考え方」が確かで豊かなものとなっていくと考えられる。なお、「見方・考え方」はまず「見方」があって、次に「考え方」があるといった順序性のあるものではない。

### (3) 内容の改善の要点

#### ① 学習内容の改善について

(ア) 従前と同様に「エネルギー」、「粒子」、「生命」、「地球」などの科学の基本的な概念等を柱として構成し、科学に関する基本的概念の一層の定着を図ることができるようにしている。

(イ) 小学校・中学校・高等学校の一貫性に十分配慮するとともに、育成を目指す資質・能力、内容の系統性の確保、国際的な教育の流れなどにも配慮して内容の改善及び充実を図っている。

# 中学校理科の「エネルギー」を柱とした内容の構成

実線は新規項目。.....は移行項目。

解説p.16

校種	学年	エ ネ ル ギ ー		
		エネルギーの捉え方	エネルギーの変換と保存	エネルギー資源の有効利用
中学校	第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>力の働き</li> <li>力の働き</li> <li>(2力のつり合い(中3から移行)を含む)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>光と音</li> <li>光の反射・屈折</li> <li>(光の色を含む)</li> <li>凸レンズの働き</li> <li>音の性質</li> </ul>	
	第2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>電流</li> <li>回路と電流・電圧</li> <li>電流・電圧と抵抗</li> <li>電気とそのエネルギー(電気による発熱(小6から移行)を含む)</li> <li>静電気と電流(電子放射線を含む)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電流と磁界</li> <li>電流がつくる磁界</li> <li>磁界中の電流が受ける力</li> <li>電磁誘導と発電</li> </ul>	
	第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>力のつり合いと合成・分解</li> <li>水中の物体に働く力(水圧、浮力(中1から移行)を含む)</li> <li>力の合成・分解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動の規則性</li> <li>運動の速さと向き</li> <li>力と運動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>力学的エネルギー</li> <li>仕事とエネルギー</li> <li>力学的エネルギーの保存</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギーと物質</li> <li>エネルギーとエネルギー資源(放射線を含む)</li> <li>様々な物質とその利用(プラスチック(中1から移行)を含む)</li> <li>科学技術の発展</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然環境の保全と科学技術の利用</li> <li>自然環境の保全と科学技術の利用</li> <li>(第2分野と共通)</li> </ul>

# 中学校理科の「粒子」を柱とした内容の構成

実線は新規項目。.....は移行項目。

解説p.17

校種	学年	粒 子			
		粒子の存在	粒子の結合	粒子の保存性	粒子のもつエネルギー
中学校	第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質のすがた</li> <li>身の回りの物質とその性質</li> <li>気体の発生と性質</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>水溶液</li> <li>水溶液</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>状態変化</li> <li>状態変化と熱</li> <li>物質の融点と沸点</li> </ul>
	第2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質の成り立ち</li> <li>物質の分解</li> <li>原子・分子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>化学変化</li> <li>化学変化</li> <li>化学変化における酸化と還元</li> <li>化学変化と熱</li> </ul>		
	第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>水溶液とイオン</li> <li>原子の成り立ちとイオン</li> <li>酸・アルカリ</li> <li>中和と塩</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>化学変化と物質の質量</li> <li>化学変化と質量の保存</li> <li>質量変化の規則性</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギーと物質</li> <li>エネルギーとエネルギー資源(放射線を含む)</li> <li>様々な物質とその利用(プラスチック(中1から移行)を含む)</li> <li>科学技術の発展</li> </ul>			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>自然環境の保全と科学技術の利用</li> <li>自然環境の保全と科学技術の利用</li> <li>(第2分野と共通)</li> </ul>			

# 中学校理科の「生命」を柱とした内容の構成

実線は新規項目。.....破線は移行項目。

解説p.18

校種	学年	生 命		
		生物の構造と機能	生命の連続性	生物と環境の関わり
中学校	第1学年	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     生物の観察と分類の仕方                      ・生物の観察                      ・生物の特徴と分類の仕方                 </div>		
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     生物の体の共通点と相違点                      ・植物の体の共通点と相違点                      ・動物の体の共通点と相違点(中2から移行)                 </div>		
	第2学年	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     生物と細胞                      ・生物と細胞                 </div>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     植物の体のつくりと働き                      ・葉・茎・根のつくりと働き(中1から移行)                 </div>				
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     動物の体のつくりと働き                      ・生命を維持する働き                      ・刺激と反応                 </div>		
	第3学年		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     生物の成長と殖え方                      ・細胞分裂と生物の成長                      ・生物の殖え方                 </div>	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     遺伝の規則性と遺伝子                      ・遺伝の規則性と遺伝子                 </div>		
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     生物の種類の多様性と進化                      ・生物の種類の多様性と進化(中2から移行)                 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     生物と環境                      ・自然界のつり合い                      ・自然環境の調査と環境保全                      ・地域の自然災害                 </div>	
				<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     自然環境の保全と科学技術の利用                      ・自然環境の保全と科学技術の利用                      〈第1分野と共通〉                 </div>

# 中学校理科の「地球」を柱とした内容の構成

実線は新規項目。 破線は移行項目。

解説p.19

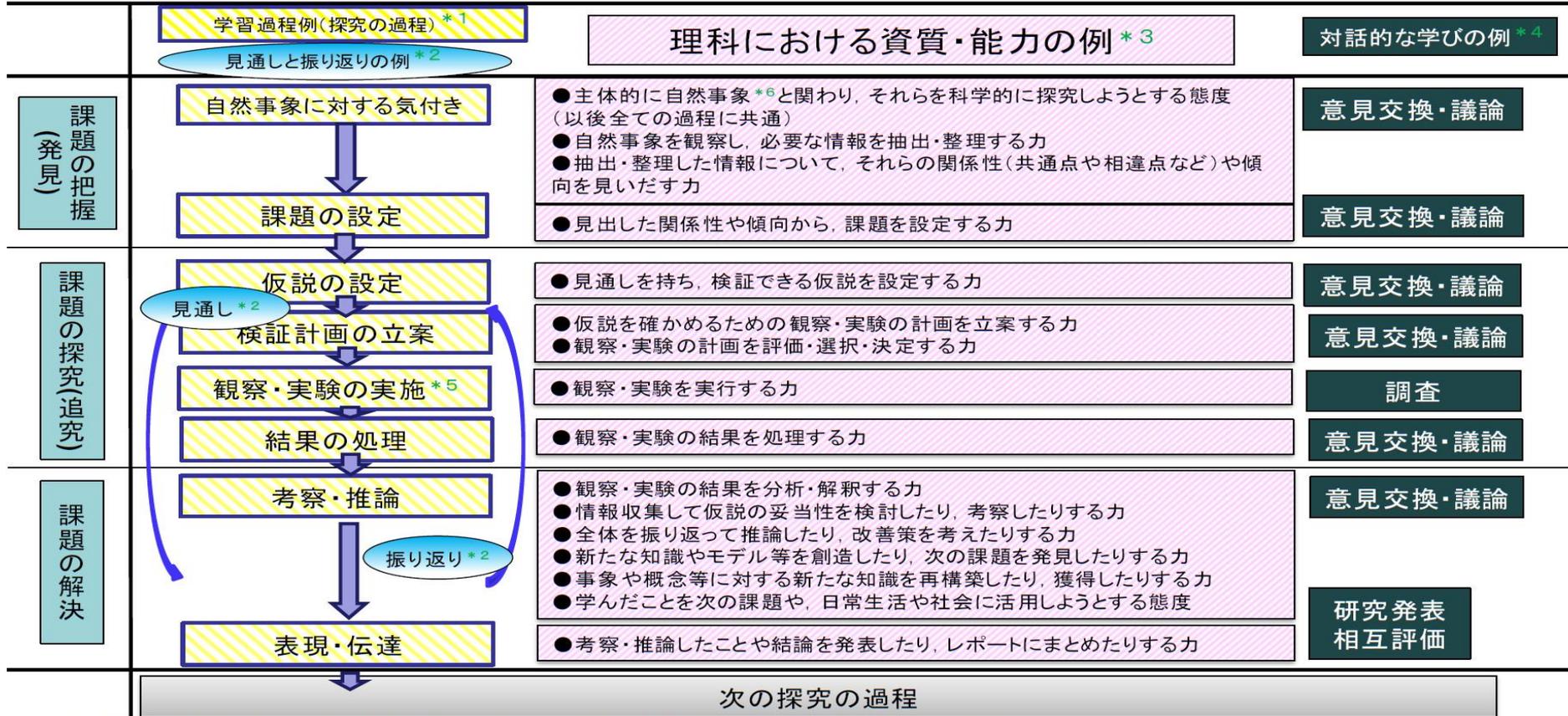
校種	学年	地 球		
		地球の内部と地表面の変動	地球の大気と水の循環	地球と天体の運動
中学校	第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な地形や地層、岩石の観察</li> <li>身近な地形や地層、岩石の観察</li> <li>地層の重なりと過去の様子</li> <li>地層の重なりと過去の様子</li> <li>火山と地震</li> <li>火山活動と火成岩</li> <li>地震の伝わり方と地球内部の働き</li> <li>自然の恵みと火山災害・地震災害</li> <li>自然の恵みと火山災害・地震災害(中3より移行)</li> </ul>		
	第2学年		<ul style="list-style-type: none"> <li>気象観測</li> <li>気象要素(圧力(中1の第1分野から移行)を含む)</li> <li>気象観測</li> <li>天気の変化</li> <li>霧や雲の発生</li> <li>前線の通過と天気の変化</li> <li>日本の気象</li> <li>日本の天気の特徴</li> <li>大気の動きと海洋の影響</li> <li>自然の恵みと気象災害</li> <li>自然の恵みと気象災害(中3より移行)</li> </ul>	
	第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物と環境</li> <li>自然界のつり合い</li> <li>自然環境の調査と環境保全</li> <li>地域の自然災害</li> <li>自然環境の保全と科学技術の利用</li> <li>自然環境の保全と科学技術の利用(第1分野と共通)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>天体の動きと地球の自転・公転</li> <li>日周運動と自転</li> <li>年周運動と公転</li> <li>太陽系と恒星</li> <li>太陽の様子</li> <li>惑星と恒星</li> <li>月や金星の運動と見え方</li> </ul>

## ② 指導の重点等の提示について

3年間を通じて計画的に、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成するために、各学年で主に重視する探究の学習過程の例を以下のように整理した。

- 第1学年：自然の事物・現象に進んで関わり、その中から問題を見いだす。
- 第2学年：解決する方法を立案し、その結果を分析して解釈する。
- 第3学年：探究の過程を振り返る。

## 資質・能力を育むために重視すべき学習過程のイメージ(高等学校基礎科目の例\*7)



- \*1 探究の過程は、必ずしも一方向の流れではない。また、授業では、その過程の一部を扱ってもよい。
- \*2 「見通し」と「振り返り」は、学習過程全体を通してのみならず、必要に応じて、それぞれの学習過程で行うことも重要である。
- \*3 全ての学習過程において、今までに身に付けた資質・能力(既習の知識及び技能など)を活用する力が求められる。
- \*4 意見交換や議論の際には、あらかじめ個人で考えることが重要である。また、他者とのかかわりの中で自分の考えをより妥当なものにする力が求められる。
- \*5 単元内容や題材の関係で観察・実験が扱えない場合も、調査して論理的に検討を行うなど、探究の過程を経ることが重要である。
- \*6 自然事象には、日常生活に見られる事象も含まれる。
- \*7 小学校及び中学校においても、基本的には高等学校の例と同様の流れで学習過程を捉えることが必要である。

# 思考力、判断力、表現力等及び学びに向かう力、人間性等に関する学習指導要領の主な記載

校種	資質・能力	学年	エネルギー	粒子	生命	地球
中学校	思考力、判断力、表現力等	第1学年	問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、【規則性、関係性、共通点や相違点、分類するための観点や基準】を見だして表現すること。			
		第2学年	見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、【規則性や関係性】を見だして表現すること。			
		第3学年	見通しをもって観察、実験などを行い、その結果(や資料)を分析して解釈し、【特徴、規則性、関係性】を見だして表現すること。また、探究の過程を振り返ること。			
	見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈するとともに、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について、科学的に考察して判断すること。		観察、実験などを行い、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について、科学的に考察して判断すること。			
学びに向かう力、人間性等	【第1分野】 物資やエネルギーに関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	【第2分野】 生命や地球に関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度、 生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。				

## 2 改善・充実の具体的事項

解説p.23

### (1) 目標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

## ① 目標(1)について

知識及び技能を育成するに当たっては、自然の事物・現象についての観察、実験などを行うことを通して、自然の事物・現象に対する概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けることが重要である。その際、日常生活や社会との関わりの中で、科学を学ぶ楽しさや有用性を実感しながら、生徒が自らの力で知識を獲得し、理解を深めて体系化していくようにすることが大切である。また、観察、実験などに関する基本的な技能については、探究の過程を通して身に付けるようにすることが大切である。

## ② 目標(2)について

科学的に探究する力を育成するに当たっては、自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈するなどの活動を行うことが重要である。その際、第1学年では、自然の事物・現象に進んで関わり、それらの中から問題を見いだす活動、第2学年では、解決する方法を立案し、その結果を分析して解釈する活動、第3学年では、探究の過程を振り返る活動などに重点を置き、3年間を通じて科学的に探究する力の育成を図るようにする。

### ③ 目標(3)について

学びに向かう力、人間性等を育成するに当たっては、生徒の学習意欲を喚起し、生徒が自然の事物・現象に進んで関わり、主体的に探究しようとする態度を育てることが重要である。その際、**自然体験の大切さや日常生活や社会における科学の有用性を実感できるような場面を設定することが大切である。**

また、**自然環境の保全や科学技術の利用に関する問題などでは、人間が自然と調和しながら持続可能な社会をつくっていくため、身の回りの事象から地球規模の環境までを視野に入れて、科学的な根拠に基づいて賢明な意思決定ができるような態度を身に付ける必要がある。**

## (2) 指導計画作成上の配慮事項

### ① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、理科の学習過程の特質を踏まえ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどの科学的に探究する学習活動の充実を図ること。

理科の指導を通して「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の育成を目指す授業改善を行うことはこれまでも多くの実践が重ねられてきている。そのような着実に取り組まれてきた実践を否定し、全く異なる指導方法を導入しなければならないと捉えるのではなく、生徒や学校の実態、指導の内容に応じ、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点から授業改善を図ることが重要である。

## (ア) 「主体的な学び」の視点の例

- 自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって課題や仮説の設定や観察・実験の計画を立案したりする学習となっているか。
- 観察・実験の結果を分析・解釈して仮説の妥当性を検討したり、全体を振り返って改善策を考えたりしているか。
- 得られた知識や技能を基に、次の課題を発見したり、新たな視点で自然の事物・現象を把握したりしているか。

## (イ) 「対話的な学び」の視点の例

- 課題の設定や検証計画の立案、観察、実験の結果の処理、考察・推論する場面などでは、あらかじめ個人で考え、その後意見交換したり、科学的な根拠に基づいて議論したりして、自分の考えをより妥当なものにする学習となっているか。

## (ウ) 「深い学び」の視点の例

- 「理科の見方・考え方」を働かせながら探究の過程を通して学ぶことにより、理科で育成を目指す資質・能力を獲得するようになっているか。
- 様々な知識がつながって、より科学的な概念を形成することに向かっているか。
- 新たに獲得した資質・能力に基づいた「理科の見方・考え方」を、次の学習や日常生活などにおける問題発見・解決の場面で働かせているか。

## ② 日常生活や他教科等との関連

日常生活や他教科等との関連を図ること。

理科の内容の中には、日常生活や社会に密接な関わりをもっているものが多い。理科で学習する規則性や原理などが日常生活や社会で活用されていることにも触れ、私たちの生活において極めて重要な役割を果たしていることに気付かせるようにすることが大切である。

また、各教科と関連する内容や学習時期を把握し、各教科の「見方・考え方」、各教科で育成を目指す資質・能力などについて、教職員間で相互に連携しながら、学習の内容や系統性に留意し、学習活動を進めることが大切である。

### (3) 内容の取扱いについての配慮事項

#### ① 科学的に探究する力や態度の育成

観察、実験、野外観察を重視するとともに、地域の環境や学校の実態を生かし、自然の事物・現象についての基本的な概念の形成及び科学的に探究する力と態度の育成が段階的に無理なく行えるようにすること。

自然の事物・現象を科学的に探究する力と態度を育てるためには、課題の設定、実験の計画と実施、器具などの操作、記録、データの処理、モデルの形成、規則性の発見など、科学的に探究する活動を行うことが必要である。しかしながら、科学的に探究する力は一挙に獲得できるものではなく、具体的な問題に取り組み、それを解決していく活動を通して身に付けていくものである。見通しをもって観察、実験を行い、得られたデータを分析して解釈し、適切な判断を行うような経験をさせることが重要である。判断に当たっては、科学的な根拠を踏まえ、論理的な思考に基づいて行うように指導する必要がある。このような経験を繰り返す中で、科学的に探究する力や態度が育成されるようになる。

## ② 生命の尊重と自然環境の保全

生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うようにすること。

生命や自然環境を扱う第2分野の学習においては、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を育成することが重要である。

「生命」については、生物の飼育・栽培、生物や生命現象についての観察、実験などを通して、生物のつくりと働きの精妙さを認識させ、かけがえのない生命の尊さを感じさせるようにする。このような体験を通して生命に対する畏敬の念や生命を尊重する態度を培うようにする。

「自然環境の保全」については、世界的な議論が活発に行われ、その実践に向けて我が国の果たすべき役割に大きな期待が寄せられている。今後永続的に人間が地球で様々な生物と共存していくためには、自然と人間の生活との関わりを正しく認識させることが大切である。自然や科学技術と人間との関わりについて科学的な根拠に基づき考察することを通して、自然環境の保全の重要性を認識させることはもとより、それに実際に寄与する態度を育てることが大切である。

### ③ 科学技術と日常生活や社会との関連

科学技術が日常生活や社会を豊かにしていることや安全性の向上に役立っていることに触れること。また、理科で学習することが様々な職業などに関係していることにも触れること。

学習を進めるに当たっては、様々な原理や法則が科学技術を支えていることに触れ、それらが日常生活や社会に深く関わりをもっていることを認識させる。特に、ものづくりでは、科学的な原理が製品に応用されていることを実感させることが大切である。

生徒が様々な課題に自立的に対応できるようにしていくためには、生徒に理科を学ぶ意義を実感させ、理科の学習で養う資質・能力が、様々な職業に関連し生かされることに触れるようにすることが大切である。例えば、科学技術に関係する職業に従事する人の話を聴かせることなどが考えられる。

### 3 移行措置について

(1) 平成31年度及び平成32年度の理科の指導に当たっては、次のア及びイのとおりとする。

ア 現行中学校学習指導要領第2章第4節第2〔第1分野〕の2(1)イ(ア)に規定する事項に、新中学校学習指導要領第2章第4節第2〔第1分野〕の2(1)ア(イ)㊦のうち「物体に働く2力についての実験を行い、力がつり合うときの条件を見いだして理解する」の部分の規定に係る事項を加えるものとする。

イ 現行中学校学習指導要領第2章第4節第2〔第2分野〕の2(2)アに規定する事項に、新中学校学習指導要領第2章第4節第2〔第2分野〕の2(2)ア(イ)㊦に規定する事項を加え、新中学校学習指導要領第2章第4節第2〔第2分野〕の3(4)オの規定を適用するものとする。



平成31年度及び平成32年度の第1学年第1分野  
「力の働き」に「2力のつり合い」を、第1学年第  
2分野「火山活動と火成岩」に「自然の恵みと火山  
災害・地震災害」を追加する。

(2) 平成31年度の第1学年の理科の指導に当たっては、現行中学校学習指導要領第2章第4節第2〔第1分野〕の2(1)イ(イ)に規定する事項のうち「水圧」の部分の規定に係る事項を省略し、現行中学校学習指導要領第2章第4節第2〔第1分野〕の3(2)オの規定は適用しないものとする。



平成31年度の第1学年第1分野 「圧力」のうち  
「水圧」の部分を省略する。

(3) 平成32年度の第1学年の理科の指導に当たっては、次のア及びイのとおりとする。

ア 現行中学校学習指導要領第2章第4節第2〔第1分野〕の2(1)イ(イ)に規定する事項を省略し、現行中学校学習指導要領第2章第4節第2〔第1分野〕の3(2)オの規定は適用しないものとする。

イ 現行中学校学習指導要領第2章第4節第2〔第2分野〕の2(1)イ(イ)に規定する事項を省略し、現行中学校学習指導要領第2章第4節第2〔第2分野〕の3(2)ウの規定は適用せず、現行中学校学習指導要領第2章第4節第2〔第2分野〕の2(3)ウに規定する事項を加え、現行中学校学習指導要領第2章第4節第2〔第2分野〕の3(4)ウ及びエの規定を適用するものとする。



平成32年度の第1学年第2分野 「植物の生活と種類」に「動物の仲間」を追加し、第1学年第1分野 「圧力」及び第2分野 「葉・茎・根のつくりと働き」を省略する。

(4) 平成32年度の第2学年の理科の指導に当たっては、次のアからウまでのとおりとする。

ア 現行中学校学習指導要領第2章第4節第2〔第1分野〕の2(3)ア(I)に規定する事項については、新中学校学習指導要領第2章第4節第2〔第1分野〕の3(5)エのうち「放射線の性質と利用」に関する規定を適用するものとする。

イ 現行中学校学習指導要領第2章第4節第2〔第2分野〕の2(3)エ(ア)に規定する事項を省略し、現行中学校学習指導要領第2章第4節第2〔第2分野〕の3(4)オの規定は適用しないものとする。

ウ 現行中学校学習指導要領第2章第4節第2〔第2分野〕の2(4)ウに規定する事項に新中学校学習指導要領第2章第4節第2〔第2分野〕の2(4)ア(I)㉑に規定する事項を加え、新中学校学習指導要領第2章第4節第2〔第2分野〕の3(6)オの規定を適用するものとする。



平成32年度の第2学年第1分野 「静電気と電流」  
に 「放射線の性質と利用」を、第2分野 「日本の気象」に 「自然の恵みと気象災害」を追加し、第2分野 「生物の変遷と進化」を省略する。